

伊方町議会第 77 回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
木嶋 英幸 議員	1 インフラ整備（水道管の耐震化）について	町 長
質問の要旨		
4 月 24 日の新聞 1 面に水道管の耐震化の記事が掲載されており、地震に耐えられる割合を示す「耐震適合率」は全国平均 42.3%に対し、愛媛県 33.6%、県内最低は伊方町の 7.7%と報道されました。2022 年度末時点の事で 1 年前ですが、現時点で変化はあるのか、又このことに対して町長はどの様に考えているのかお答えください。 今年 1 月の能登地震では甚大な被害が生じ未だに断水が続いているところがある。 4 月 17 日深夜発生した南予一帯の地震でも破裂漏水があったものの、早期復旧しているとのことですが、石川県の適合率 37.9%は伊方町の 5 倍もあるのに断水が続いているところがあるのが現状です。今年に入り、頻繁に地震発生ニュースが流れ、冷や冷やしながら日々を送られている住民がたくさんおられます。自然には逆らえませんが、万が一の対策は講じなければいけないのではないのでしょうか。 私は上下水道の整備は命のパイプであり町を存続させる為の重要課題と思っているが、町長はどう思われているかお尋ねします。優先順位と言わないまでも、このあたりの見解もお聞かせ願います。 昭和 60 年に国が定めた半島振興法に、ここ佐田岬半島も指定地域となっていると思います。振興法は、かなり優遇されていると思うので、うまく利用できないもののでしょうか。上下水道の整備でこれからやろうとしていることがあれば、できるだけ具体的にお示しください。		

質問者	質問の大綱	質問の相手
木嶋 英幸 議員	2 防災対策について	町 長
質問の要旨		
先ほどの質問と関連するところもありますが、二次災害などを少しでも抑えるための施策は必要ではないのでしょうか。旧瀬戸地域の避難場所として町が指定している場所の一部が無くなりました。緊急時に使われるだろうと思われていたヘリポートや、がれき置き場、仮設住宅の設置場所など代替地はできたのでしょうか。 小さいとはいえ、頻発している地震、近い将来起こると言われている南海トラフが来た時のアフターを地域住民は非常に心配している声を耳にします。本来なら住民の生活を守るためにも、これを先にしてから進めるべきだったと今でも思っておりますが、住民の不安を少しでも解消するためにも、今後の方針を明確に示して欲しいと思います。町長の見解をお尋ねします。その上で町独自の避難訓練のマニュアルがあれば見直しや避難道の整備等、どの様に考えておられるかお尋ねします。		